

Title	中国語学習辞書の「用例」についての考察： 二音節の実詞に対する語彙的性質からの視点を中心に
Sub Title	A discussion on vocabulary "examples" in Chinese language learner dictionaries : with a focus on the standpoint of lexical properties of 2 syllable content words
Author	浅野, 雅樹(Asano, Masaki)
Publisher	慶應義塾大学日吉紀要刊行委員会
Publication year	2020
Jtitle	慶應義塾大学日吉紀要. 中国研究 (The Hiyoshi review of Chinese studies). No.13 (2020. ) ,p.306 (29)- 278 (57)
JaLC DOI	
Abstract	汉语学习词典的微观结构, 通常有“词条”、“发音信息”、“释义”、“示例”、“注解”等主要因素。其中, “示例”与“发音信息”和“释义”相比较, 有时被认为是次要因素。但是“示例”不仅是词语的基本含义, 也要了解其用法或搭配、语用特征或文化义等信息时, 其重要度也会大大增加。本文针对几部现代汉语学习词典上的“示例”, 立足于何种“示例”对日本学习者更为有用的视角进行考察和分析。本文的目的主要是根据词语的词汇性质和特征, 就指出“示例”在学习词典上提示的问题, 探究其最佳原则和方法。因为是根据词语的词汇性质和特征对“示例”进行考察, 所以本文主要将双音节的名词、动词、形容词等实词的“示例”作为的考察对象。
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12310306-20200331-0306">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AA12310306-20200331-0306</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 中国語学習辞書の 「用例」についての考察

## ——二音節の実詞に対する語彙的性質からの 視点を中心に——

浅野 雅樹

### 提要

汉语学习词典的微观结构，通常有“词条”、“发音信息”、“释义”、“示例”、“注解”等主要因素。其中，“示例”与“发音信息”和“释义”相比较，有时被认为是次要因素。但是“示例”不仅是词语的基本含义，也要了解其用法或搭配、语用特征或文化义等信息时，其重要度也会大大增加。

本文针对几部现代汉语学习词典上的“示例”，立足于何种“示例”对日本学习者更为有用的视角进行考察和分析。本文的目的主要是根据词语的词汇性质和特征，就指出“示例”在学习词典上提示的问题，探究其最佳原则和方法。因为是根据词语的词汇性质和特征对“示例”进行考察，所以本文主要将双音节的名词、动词、形容词等实词的“示例”作为的考察对象。

### 一 はじめに

学習者が「辞書で調べる」或いは「辞書を使用する」といった場合、実際どのようなことを指すのであろうか。主に未習の単語の意味やピ

ンインを知りたいとき、まず該当する語を検索し、見出し語として探し当てた後、必要な語彙情報を得る。このような一連の学習活動が中国語学習者にとっての一般的な辞書の用途であると言える。筆者は中国語の一教員として辞書における「用例」の役割を重視しているが、学習者が普段の辞書使用の中で、どれほど「用例」に目を通していいのか、またどのように「用例」を活用しているのかという問題については不明点が多い。ただ、教員の立場から言えば、学習者が辞書を使用した際は、しっかりと「用例」にまで目を通すような指導を心掛けたと考えている。

中国語の学習辞書のミクロ構造は、通常「見出し語」、「音声情報」、「語義記述」、「用例」、「注釈」などの主要素から成る<sup>(1)</sup>。その中の「用例」については「音声情報」や「語義記述」と比較すると、副次的な要素であると認識されることがある。辞書の利便性や簡易性だけを追求するものであるならば、不要であるとする見方も可能だろう。しかしながら、黄建华等（2003：60）で述べられるように、「用例」は語の基本義だけでなく、用法やコロケーション、語用や位相面での性質なども含めて知ろうとする場合は、その重要度が増す<sup>(2)</sup>。また、日本人学習者の中国語辞書使用では、“提出”、“医院”、“快乐”など日本語の同形語と微妙な差異を有する中国語の語や、一対一の関係的確な一つの訳語で語義が認識できない語に対しては、「用例」に触れてはじめて、語の全体的な理解へつながる<sup>(3)</sup>。さらに、語彙学習の面で「語彙の広さ」のみならず、「語彙の深さ」に関わる語彙能力の向上を目的とするなら、辞書における「用例」は必須のものとして見なす必要性が生ずる。

本稿は中国語の学習者向け学習辞書における見出し語に付される「用例」について、語彙論の角度からの考察を行なう。どのような「用例」が主に日本人学習者にとって有用性が高いのかという教育上の課題の解決を試みる。語の語彙的な性質と特徴に応じた「用例」の提示について、事例から問題点を指摘し、その最善の原則性や方法を

探求することが本稿の目的である。語の語彙的性質や特徴に応じた「用例」の提示に関する考察を行なうという理由により、本稿では主に二音節の名詞、動詞、形容詞などの実詞に対する「用例」を対象とする。

## 二 「中国語学習辞書」とその研究について

中国では、対外漢語教育と学習用の「学習辞書」の作成と研究が盛んに行なわれている現状が見られる。また研究面でも、鄭定欧等主編(2006)、蔡永強(2016)、解海江等(2015)などの論文集や研究書において、辞書学や言語教育の理論的な側面からの研究や、教育界全体の辞書編纂の動向や使用状況に関する評価や報告等の論考が見られる。学習辞書の「用例」については姜自霞(2006)、刘川平(2006)、刘若云等(2012)で、用例文の提示の原則、形式や機能、既存の個別の辞書に対する調査報告、外国人学習者と国内の母語話者が必要とする「用例」の相違などの問題が取り上げられている。

対外漢語教育において、使用されている主な「学習辞書」としては、《学汉语词典(商务印书馆)》、《现代汉语学习词典(商务印书馆)》、《汉语教与学词典(商务印书馆)》などがある<sup>(4)</sup>。本稿で調査及び考察の対象とするのは、《学汉语用例词典》(以下、《用例》と記す)、《学生汉语活用词典》(以下、《活用》と記す)、《实用对外汉语重点难点词语教学词典》(以下、《重点》と記す)、《现代汉语疑难词词典》(以下、《疑难》と記す)、以上4冊の中国で出版された辞書と日本で出版された『はじめての中国語学習辞典』(以下、『学習』と記す)1冊である。これらの辞書は全体の見出し語数が少なく、「語義記述」や「用例」に使用するメタ言語の簡易性が考慮されている。また、「類義語」や「反義語」の提示、「用法」に関する情報が多いといった学習辞書としての性格がより強いと見なせるものである<sup>(5)</sup>。

### 三 学習辞書における「用例」とは何か

#### 1. 「用例」の原則性について

劉川平（2006）では、中国語学習辞書を作成する際に採用する「用例」について、九つの原則が示されている<sup>(6)</sup>。その中でも、とりわけ重要であると筆者が判断した「実用性」、「簡易性」、「整合性」という三つの原則を挙げ、辞書における実例を提示しながら考察を行なう。

- ①「実用性」「現実性」：語義に対する解説の他、使用面での特徴に着目するならば、提示する用例文は実用性が高く、日常生活面での頻度もより高いことが原則となる。

同学 同学，请问去地铁站怎么走？ | 同学门，现在上课。 | 全班同学都同意周末去公园玩。 《用例：1073》

上に示したのは《用例》における“同学”に対する一部の用例文である。最初の例文は学校という場面に限らず、学校に関係のない人が呼称として使用する可能性もあることから、二つ目と三つ目の用例に比べると、より日常的な生活面で使用する頻度が高いと言える。二つ目の例と最後の例は、おおよそ学校内という場面でのみ使用されるような文であるが、最後の文は使用される場面がより限定的であり、最も実用性が低いと見なせる。

- ②「簡易性」「浅易性」：“释义”「語義記述」におけるメタ言語の難易度の問題がよく指摘される。同様に、用例文の言語的な難易度も考慮されるべきである。難度が高い語を使用した用例の使用は避け、また全体的な辞書編纂の方針として、例文作成や提示において使用する語を一定の数に限定することが求められる<sup>(7)</sup>。

粗心：谁知一时～，竟铸成大错 都怪我太～，昨天刚买的书，今天就丢了  
《活用：102》

上は、《活用》における“粗心”の用例の一部であるが、この原則に照らし合わせて言えば、後ろの例が前の例より簡易であり、適当な用例であると言える。

③「整合性」「協調性」：主に「語義記述」で示した事項と整合性が取れるような「用例」の提示を行うことを指す<sup>(8)</sup>。「用例」は辞書において単独で機能するものではなく、「見出し語」に対する「語義記述」或いは「補足説明」等の部分で提示した、何らかの情報と効果的に結びつく必要がある。

「用例」は「見出し語」の「意味項目」に応じて付されるのが一般的である。そのため、普通は該当する「意味項目」に応じた用例が付される。ただ、一つの「見出し語」に二つの「意味項目」があった場合、前の項目の「用例」でありながら、後ろの項目の意味でも受け取れるもの、或いは、どちらの項目の意味を示すのか判別できない曖昧なものが見受けられることが多い。

功课（名）1. 学生按规定学习的知识、技能。如：

- (1) 他在学校里每门功课都很好。
- (2) 最近我们的功课很紧，没有时间去玩了。

2. 教师给学生布置的作业。如：

- (3) 你的功课做完完了吗？
- (4) 功课实在太多，看样子今晚又要开夜车了。 《重点：231》

上に示した例はある辞書における“功课”に対する例であるが、二つの「意味項目」に対して、それぞれ二つの「用例」が示されている。

意味項目「1」の“学生按规定学习的知识、技能”という内容と、下の「用例」の相応度がそれほど高くないと見なさざるを得ない例である。(2)を見ると、意味項目の「2」の語義でも解釈できる。また、(2)の“功课很紧”は上の「語義記述」に必ずれば、「知識や技能がきつい(切迫している)」という解釈になる。そのため、(2)における“功课”の語義が不明瞭になってしまう可能性は否定できない。

## 2. 「用例」の形式

辞書における「用例」は、一般的に「見出し語」と「語義記述」の後に置かれ、「意味項目」ごとに付される。また「用例」は文の単位で示されるほか、フレーズ(連語)のレベルや、またやや長い複文が用いられることもある。数は、一つの「意味項目」につき、平均的に三、四つであり、学習辞書の色彩が強いものほど、より多く示される傾向にあると言える<sup>(9)</sup>。例えば、《学汉语用例词典》について見ると、各見出し語の「意味項目」ごとに平均して五つ、文レベルで合計約10000の「用例」が付される。また、一部が対話形式になっている点が特徴的である<sup>(10)</sup>。

下表は4冊の辞書における、一部の見出し語についての「用例」を調査した結果を示すものである。

下表からわかるように、辞書によってある程度の相違が見受けられる。全体的に「“短语”(フレーズ)」の例が少ない。また、一部が対話形式になっていたり、反例が付されていたりする点に「学習辞書」

表 頭文字のピンイン「k」収録語(二音節の実詞に限定)

辞書	词条 (見出し語)	词项 (意味項目)	例数	短语 (フレーズ)	句子 (文)	复句 (複文)	対話	反例	问句 (疑問文)
用例	163	179	<b>610</b>	0	434	162	14	9	43
活用	97	101	<b>344</b>	56	115	173	0	9	1
重点	18	33	<b>148</b>	0	78	68	2	20	9
学習	189	220	<b>257</b>	109	122	26	0	0	5

としての性格が見られる。

### 3. 「用例」の機能について

中国語で“释义”と称される「語義記述」は語の静態的な面での理解のためにある。それに対し、「用例」はその語が実際にどういう文脈の中で、もしくはどういう文体や語気で使用されるのかを示すもので、語に対する動態的な理解のためにあると言える。また、語彙習得の面で、アウトプットを伴う「発信語彙」の段階までの到達を目指すのであれば、その役割はさらに重要となろう。魏向清等(2014: 156)では学習辞書の「用例」の機能を“示义型再语境化”と“界面型再语境化”の二つに分けている。前者は語義に対する理解を深めるための文脈化を指す。「語義記述」や二言語辞書における「訳語」だけでは理解が不完全となることが多く、抽象的な概念を持つ語や字義から語義の類推ができない語に対しては、特にその必要性が高まる。後者は、語の意味の他、さらに用法、語用、文体面における特徴などの語彙情報に注意を払った文脈化を指す<sup>(11)</sup>。

日本人学習者にとって有用性が高い「用例」という観点から述べれば、日本語の漢語語彙とわずかな差異を持つ「日中同形近義語」を注視しなければならない。これらの語に対しては、「用例」でその差異を明らかにする仕組みを作ることが求められる。また、一対一の関係での確な一つの訳語で語義の認識が難しい語や中国文化の色彩が強い語などに対しては、理解を深める過程で、「用例」の存在が不可欠であろう。

## 四 「語義記述の方法」に応じた「用例」の提示について

辞書のマイクロ構造で、重要な要素の一つに中国語で“释义”と言われる「語義記述」がある<sup>(12)</sup>。これは、「見出し語」の主に基本的な語義を示す辞書の骨格であると言える。語義の他にも、用法や語用的な

特徴など様々な語彙情報が盛り込まれる。また、所謂「中日辞典」などの二言語辞書においては、おおむね目標言語の見出し語に対する「訳語（日本語）」を付するのが一般的である。

前節で挙げた、用例提示の原則の一つである「整合性を高める」という目的に応じて、「語義記述」と「用例」の有機的な結びつきを考究することは重要な課題である<sup>(13)</sup>。既存の学習辞書においては、いくつかの「語義記述の方法」が使用されている。ただ、複数の方法が用いられる場合でも、その方法に応じた「用例」が付されるという事例は、それほど見受けられない。本節1項以下では、四つの「語義記述の方法」に適した「用例」の提示について、学習辞書における事例を挙げながら、論考を試みたい。

## 1. 「語句」による方法

単語レベルで「見出し語」の語義を示す方法で、同義語や類義語、反義語や関連用語などを用いる。二言語辞書で「訳語」を用いるのも、本方法に属すると言える。

干扰 gānrǎo 〈动〉影响

[例] 不许～正常秩序 避免磁场～ 工作受到～ 你干你的, 我干我的, 咱们互不～  
《活用: 192》

gānrǎo 干扰 [動] じゃまをする. 妨げる

(略) [～正常工作] 通常の業務を妨げる / (略) [別来～我们了] じゃまをしに来るんじゃない.  
『学習: 237』

上の例は“干扰”という語に対して、“影响”という単語の形で語義が付されている例である。このような方法は、国内の母語話者向けの辞書のみならず学習辞書においてもよく見られる。表層的な語義の理解が目的である場合、「“干扰” = “影响”」のように、「A（見出し

語) = B (説明語)」という知識を得るだけで十分である。ただ正確かつ詳細な語義の理解を目的とするなら、AはBに相当する意味を持つという理解を基礎にして、さらにBとの相違も認識する必要がある。その下の例のように、二言語辞書において中国語の見出し語に日本語の訳語が付される場合も同様であると言える。“干渉”は“影响”に比べると、ある人やモノが、もう一方の人や事物に何らかの直接的な接触によりダメージを与えるという語義が強い。また、使用面では、どちらかと言えば、日常的な場面での動作や状況等で、無意識に相手の邪魔をするような場合に使用される<sup>(14)</sup>。以上の点から判断すると、“干渉”の後に示されている「用例」は最適なものであるとは言えない。上述したような、“影响”との相違がある程度認識できる「用例」の提示が効果的であると言える<sup>(15)</sup>。

讲究 讲求；重视。[例] 不要过分～排场 姐姐对衣着十分～ 生活应该～节约 说话要～个分寸，太轻太重都不适当  
《活用：295》

上に示したのは、“讲究”という語に関する例である。“讲究”の語義が“讲求”、“重视”とされているが、“讲究”は“讲求”や“重视”と比べると、本来、道徳的、情理的に重んずるべきものが対象となるという特徴を持つ。その用例における“排场”、“生活一节约”、“说话一分寸”などから、これらの特徴が十分に認識できると見なせる。したがって、“讲究”に付された文は、前の“干渉”と比較すると、語義記述の方法に応じた用例であるという見方ができる。

同一言語か二言語間であるかを問わず、語彙レベルで完全に一対一の対応関係は存在しない。この点を前提にすれば、このような「語句による方法」を用いた場合、「見出し語」と「説明語」が完全に同等の関係であることはないため、二つの示差的な特徴も同時に認識できるような「用例」を採用することを提案したい。このような「語義記

述」の限界を、「用例」で補足するという視点は、辞書の編纂のみならず、実践的な教育現場における学習者に対する語彙指導の面でも効果的であると考えられる。

## 2. 「定義」を用いた方法

基本的に文の形で定義や説明、描写等により語義を示す方法である<sup>(16)</sup>。中国で使用される対外漢語学習用の辞書が最も多く採用する方法である。二言語辞書においても、日中異形語で日本語の適当な訳語がない語、抽象的な語義を持つ語、また中国文化が色濃く反映されている語に対しては、本方法を用いることが多い。「見出し語」に対する「語義記述」で、この「定義を用いた方法」を使用した場合、「語義記述」の内容と照応する「用例」の提示が相応しいと言える。

以下に示すのは“惦记”という語に関する辞書における例である。

惦记 diànjì 〈动〉 心里老想着，放心不下。

[例] 妈妈～着儿子的安全 他在地非常～着我家乡的父母 爷爷常常～着寓居美国的大伯一家 他临终还～着未完成任务

《活用：133》

惦记 diànjì 〈动〉 (对人或事物) 心里老想着，放心不下。(be concerned about) 常做谓语。

她一直很惦记父母，担心老人的身体。| 妈妈写信让儿子别惦记家，在国外好好学习。| 老王又惦记起儿子的病来，连觉都睡不好。

《用例：247》

“心里老想着、放心不下”という語義が両辞書とも同じ文言で示されている。この内容に応じた「用例」の提示という観点から述べると、「“心里老想着”（心の中でいつも気にかけている）」という部分は、すべての「用例」から読み取れる。一方で、「語義記述」の箇所では、

さらに「“放心不下”（心配でたまらない）」という気持ちの程度を示す内容がある。これに応じた「用例」は、《活用》の最後の“临终还”、《用例》の最後の“连觉都睡不好”の部分が相当すると言える。その他のものには“放心不下”に応ずる内容の語句は見られない。もし「語義記述」の内容に応じた「用例」の提示を考えるのであれば、この二つのような内容を含む文が適していると言える。

怀念（动） 对给自己心中留下美好印象的人或事物久久地思念，不能忘记。如：

- （1）我一直深深地怀念着我的父亲。
- （2）出门在外，过节时就特别怀念亲人。《重点：257》

上の“怀念”について、語義記述の箇所では、「人或いは事物に対して」という内容が見られる。ただ、下に付されている用例を見ると、二つとも「人に対する」意味の用例である。語義記述の内容に照応するという観点からすれば、「事物に対する」用例も同時に付するのが適していると言える。

### 3. 「形態素」による方法

二つ以上の形態素から成る「合成語」について、その語の意味を総体的に捉えるのではなく、構成要素である二つの形態素に分けて、語義を記述する方法がある。語の内部の構造に注意し、構成要素である形態素に分解する方法である。中国で出版される学習辞書や教材においては、以下のように、「AB：ACBD」と表記する方法がよく用いられる。これらは、形態素を利用した一種の語義記述の方法であると見なすことができる。

募捐：募集捐款 《活用：425》

畅快：舒畅快乐 《活用：71》

培训：培养，训练（人）。《用例：798》

健美：健康而优美。《用例：539》

このように、「形態素による方法」を用いた場合、「見出し語」を含んだ「用例」を提示すると同時に、形態素の語義を明らかにするための「用例」も付すことで学習者の語に対する理解を深めることが期待できる。例えば、上に示した“募捐”、“畅快”について言うと、語中の形態素の“捐”や“畅”は、“募”や“快”と比較すると難度は高いと見なせる。漢字の知識から語義の推測が可能な日本人学習者にとっては特にこの点が顕著である。“捐”が「寄付」、「畅」が「思うがまま、気分よく」という意味を何らかの形で明示する。例えば、“捐：捐钱 为建医院捐了很多款”、“畅：畅饮 畅谈”といった「用例」を“募捐”や“畅快”自身の「用例」と併せて表記するという方法を提案したい<sup>(17)</sup>。

このように「語義記述」において「形態素による方法」を使用し、二音節語のどちらか一方に難度が高い形態素が認められるような場合は、その形態素自身の解釈のための「用例」を同時に付す。これにより「語義記述」との整合性が高まると考えられる。

#### 4. 「括弧」を用いる方法

前述した「定義を用いる方法」と基本的に同じであるが、記述の一部に「括弧」を用いる方法がある。括弧の中に入るのは、そのほとんどが文法面における情報や使用上についての文脈等に関する情報である。無論、括弧内で示される情報は、学習者にとって重要で、その語に関する誤用を防止する機能が果たされる。このような括弧を用いた語義記述の後に付される用例は、括弧内で示された情報や内容が反映される必要がある。また、括弧内で示されている内容が、やや難解な場合は「用例」によりそれを補足するような工夫が求められる<sup>(18)</sup>。

关闭〈动〉(企业、商店、学校等) 歇业或停办。

[例] 商店经营不善, 已经~ 图书馆为了方便读者, 拖延~时间  
由于入学儿童减少, ~了几所幼儿园 《活用: 220》

上に示した“关闭”の例は、「語義記述」における括弧内で「企業、商店、学校など」と示される。その下に示される用例は、「閉める」対象が、それぞれ“商店、图书馆、幼儿园”であり、おおむね語義記述による内容と合致していることがわかる。

机遇 jīyù 〈名〉 状况和遭遇; 时机、机会 (多指有利的)。  
(chance) 常做宾语、主语。

人类进入21世纪, 既面临着发展机遇, 也要迎接各种挑战。| 光有才能, 没有机遇, 也很难做出成绩来。| 机遇一出现, 就应当紧紧抓住。 《用例: 500》

上の“机遇”は、「語義記述」における括弧内で「多くの場合、有利なことを指す」と示されている。一番目の用例は、文意と前に“发展”と結びついていることから、この点が反映されていると言える。ただ、二つ目と三つ目の用例については、「有利」という意味がやや読み取りにくいと見なせる。

器重 qìzhòng 〈动〉(长辈对晚辈, 上级对下级) 看重; 重视。

[例] ~人才 教练很~这位选手 班长工作能力强, 处处表现好,  
老师对他~得很 他是我们班上的尖子学生, 受到了学校的~  
《活用: 470》

上の“器重”の例では「語義記述」で一部に括弧が用いられている。括弧内で示されるのは「年長者から年少者、上司から部下に対して」という動作の方向性である。その下に四つの用例が示される。最初の

“～人才”というフレーズの例からは、この点は見出せないが、その次の例では“教练—选手”、“老师—班长（他）”という人間関係が示され、この点が強調されている。最後の例の“学生（他）—学校”は「個人と組織」であることが見て取れる。“器重”の動作の方向性がややつかみ難いと言えるが、括弧内の内容を強調するという点を考慮すれば、“学校”を“校长”に換えるといった工夫ができる。

## 五 語彙論における語彙情報との関係性について

学習辞書においては、語の基本的な語義だけではなく、文法、付属義、語用の面における様々な「見出し語」に関する語彙情報が示される<sup>(19)</sup>。これらは一般的に、「語義記述」の部分か、或いは学習辞書では“提示”といった「補足説明」の欄で示されることが多い。また、楊金華（2015）で述べられるように、その重要度により、提示が必須となる事項もあれば、辞書編纂の方針や対象となる語の性質により、提示の有無が任意であるような事項も存在する<sup>(20)</sup>。辞書の作成にあたり、簡易性の原則や紙幅の関係により、すべての情報を提示することは不可能である。辞書の使用者である学習者にとって重要な事項を精査し、また語の語彙的な特徴や性質に応じたうえで、どの語彙情報を明示するのか決める必要がある。

例えば、動詞の“嘱咐”という語について、各学習辞書でどのような語彙情報が明示されているのか調べて見ると、下記のように辞書によって異なることが分かる。

《用例》：语法功能 语义重点

《活用》：语体色彩 语义轻重 语气

《重点》：语义重点 语体色彩 使用情况 语气 语法功能

このような語彙情報に照応して、それらが分かりやすく十分に反映

される「用例」の提示が一つの課題となる。

本節1項以下では、“褒贬义”、“适用范围”、“礼貌程度”、“句法功能”の4点を取り上げ、それぞれの事項について学習辞書でこれらが明示されていた場合の「用例」を観察する。また、どのような「用例」が、これらの語彙論的事項の理解に適しているのかという点について、事例を挙げながら考察する。

### 1. “褒贬义”「褒贬義」

“感情色彩”「感情的な意味合い」の面で、“褒义”「感情的に良い（褒める）意味」か“贬义”「感情的に悪い（貶す）意味」か、という語の語感的な性質がある。これは学習辞書でよく使用される語彙論における事項である。“美丽”は“褒义”、“丑陋”は“贬义”のように語彙レベルで、これらを判別できる例がある。一方で、連語レベルや文レベルにおいて、はじめて定めることができる語も存在する。そのため、辞書の「語義記述」や「補足説明」等において、この“褒贬义”を記した場合、「用例」から明確かつ容易に理解できるようにする必要性が生ずる。

庞大 pángdà [形] 形体、组织、规模非常大。(enormous) 常做定语、谓语、补语，不可重叠。

**例句** 总经理领导着一个庞大的公司。| 政府的开支十分庞大。| 这次活动搞得很庞大。

**辨析** 〈近〉巨大。“庞大”多用于形体、组织，“巨大”多用于规模和数量。另外“庞大”常有贬义色彩；“巨大”是中性词。

《用例：794》

上に示したのは“庞大”という語の例で、“巨大”との比較から“常有贬义色彩”とされている。三つの用例文における“庞大”には“贬义”という語感面での意味合いがあることは確かである。しかし、

学習辞書における例であることを考慮すれば、より明確に“贬义”のニュアンスが色濃く、学習者にも認識しやすい「用例」の提示が適当であると言える。文脈が乏しい中で、例のように「大きい会社」、「支出額が大きい」、「活動の幅が大きい」とだけ示しても、「“庞大” 常有贬义色彩」と記された内容を学習者が認識することは難しい。さらに、何らかの文脈を加えることや、文中で“庞大”と結びつく語句を他のものに換える工夫ができる。

耐心 (1) 张老师非常耐心。(2) 宾馆给我们提供了耐心周到的服务。(3) 他耐心地回答了所有的问题。(4) 最近, 他变得耐心了。(5) 今天, 他显得很热情、很耐心。

《重点: 371》

上に示したのは、“耐心”についての「用例」である。この下の“提示”の部分には“耐心是褒义词。”という表記が見られる。五つの用例で、この点がより明確に反映されていると見なせるのは(2)と(5)である。同じ文中で、(2)は“周到”、(5)では“热情”と並列関係で使用されている点から、“褒义”が認識しやすい。その他の(1)(3)(4)については、文意から“耐心”が“褒义词”であるというニュアンスを明確に読み取れないものであると判断できる。

## 2. “适用范围 (具体·抽象义)” 「使用範圍 (具体·抽象義)」

“适用范围 (具体·抽象义)”という事項について述べる。辞書では、主に動詞や形容詞に対して、結びつく語が「具体義」か「抽象義」という意味面に関する情報が記される<sup>(21)</sup>。この場合、「用例」を通さなければ、実際どのような語と結びつくのかという理解が得られない。複数の「用例」や、「具体」か「抽象」かという点で誤った語と結びついた場合は完全に非文になるといった反例を用いることにより、その知識の活性化が見込める。

“喜爱”の宾语多是具体的人或事物，多带名词性宾语。“喜欢”的宾语可以是具体的人或事物，也可以是抽象的事物，能带名词性和非名词性宾语。

喜爱（1）我特别喜爱小动物。（2）又红又大的苹果真让人喜爱。  
（3）看到玩具娃娃，他喜爱极了。（4）他最喜爱看武打小说。

喜欢（1）我很喜欢这件毛衣。（2）喜欢哲学的学生不太多。  
（3）她喜欢唱京剧。（4）这个孩子他喜欢极了。（5）我说个好消息给你听，让你喜欢喜欢。 《重点：484》

上は“喜爱”と“喜欢”の例であるが、“喜爱”の目的語は多くの場合は「具体」、 “喜欢”は「具体」「抽象」のどちらの目的語とも結びつきが可能であるとの記載が語義記述の箇所に見られる。二つの語に示された用例を見ると、すべて対象を示す目的語が含まれる文であるが、“喜欢”の「抽象的」な語と結びつく例がややわかりにくい。（2）と（3）、或いは（5）が「抽象的」な事象と結びつく例であると見られるが、より「抽象義」が強い例を用いた方がよいと考えられる。また、“喜爱”の抽象的な目的語と結びつく誤用例を付すことで、学習者の理解を深めることができる。

协助 xiézhù 〈动〉帮助，辅助。（assist; help）常作谓语、宾语。  
我是来协助张科长工作的。 | 这件事请您协助协助，怎么样？ | 这两位老人每天早晚都在这个路口协助民警维持交通秩序。 | 现在我们公司遇到了困难，望贵公司予以协助。

辨析〈近〉帮助。“协助”表示从旁帮助共同搞好；“帮助”既可

表示共同搞好，也可表示代替别人搞。“协助”多用于战斗、工作等具体方面；“帮助”使用范围较广，可用于具体事物，也可用于抽象事物。如：\*你就放心出差吧，这事我一定协助你办成。（“协助”应为“帮助”） | \*我们得多从思想上协助他。（“协助”应为“帮助”）

《用例：1185》

上に示したのは、“协助”という見出し語についての例である。一番下の「辨析」「解析」のところで、“协助”が「具体」に用いられ、“帮助”は「具体」、「抽象」のどちらでも使用できると記されている。最後の箇所では、“帮助”との比較により、“协助”を“帮助”に直すべき例が示されているが、“协助”自体の例は示されていない。「語義記述」の下に、“协助”の用例の箇所で、四つの用例文が示されているが、具体性が明確に読み取れるのか観察してみると、一つ目の「張課長の仕事を助ける」、三つ目の「警察の交通秩序の維持を助ける」は内容的に「具体性」を帯びるものであると見なせる。しかし、学習者自身が「具体」と「抽象」という二項対立の中で、「具体性」を帯びていると認識することは、やや無理があると言わざるを得ない。また二つ目と四つ目の用例文からは、「助ける」という動作行為だけが強調されるものであるため、対象が「具体」と「抽象」のどちらかということとは判別できない。

### 3. “礼貌程度”「丁寧度」

“礼貌程度”「丁寧度」という語感的な意味合いが、よく語用面における事項として示される。また、2語以上の比較対照する類義語弁別においても、よく一方の語が「丁寧度」は高く、もう一方の語は低いというような分析がなされる。さらに学習辞書では、“多用于比较正式严肃的情况”「多くの場合比較的フォーマルで厳肅性を帯びる場面で用いる」というような記載がよく見られる。このような使用場面の特性や語感的な意味も含めて言う「丁寧度」は、語が静態的な面で持

つものであると見なすことができる。ただ一方で、実際は文脈を伴った上で、はじめて認知できるものと考えられる。また、同じ語でも、使われる文や文脈によって、「丁寧度」にも差異が生ずることもある。したがって、「語義記述」などの箇所以示した場合、さらに「用例」においても、この点が確実に読み取れるような文や文脈を提示することが課題となる。

推辞（動）表示拒绝，不允诺。可带补语，可带“了、过”。如：

（1）同学们信任你，选你当代表，你就不要推辞了。

（2）他突然邀请我吃饭，我推辞了。

提示：

1. “推辞”着重于推脱，不肯接受。常出于谦虚、客气，对馈赠、邀请等有礼貌地、客气地拒绝。 《重点：471》

上に示したのは、“推辞”に対する「語義記述」と「用例」である。さらにその下の“提示”という「補足説明」の箇所に、“有礼貌地、客气地拒绝”という記載がある。これは語用面での、“礼貌程度”という語彙情報に相当する。ただ、前に示された（1）（2）の文における“推辞”は「丁重にお断りした」ということを示していることは間違いないが、辞書の使用者がこの二つの「用例」からこの特徴を見出すことは難しいと判断できる。使用場面がよりフォーマルなものであることが分かる文を使用することが求められる。“你”や“他”といった人称代名詞を含んだ単文は、動作者や対象者が具体的にどのような人物なのかという点が不明瞭になる。厳肅性がより高まる、“总经理”、“代表团”、“客人”などの動作者と動作の対象を示す語を含んだ「用例」の提示が適当である。

#### 4. “句法功能（补语）”「文法機能（補語）」

国内の母語話者用の辞書等にはほとんど見られないが、外国語学習

者向けの学習辞書には、文法面での様々な事項が記されるのが一般的である。辞書には本来システムティックな語彙目録としての機能があるが、学習辞書の場合は、その中に文法的な情報を盛り込む体裁を取って作成されることが多い<sup>(22)</sup>。

文法面の事項と言っても多岐にわたるが、ここでは語の文法機能と位置付けられる文成分の一つの「補語」に関する例を見ていく。

#### 准时（形）

表示动作或行为按照规定的时间进行或结束。多做谓语、状语、补语。如

(1) 他每次开会都来得非常准时。

(2) 明天的活动希望大家准时参加。

(3) 王老师每次上课都很准时。

《重点：264》

上の例では、“准时”に対して、「語義記述」において、「多くの場合、述語、状況語、補語になる」と記されている。その直後に“准时”を含んだ「用例」が三つ示されているが、(1)が補語（“得”の様態補語）として使われている例である。筆者の観察によれば、学習辞書で形容詞などの二音節語が「補語になれる」とされた場合、その直後に示される「用例」は大多数が“得”の後に置かれ、「様態補語」として用いられているものである。

ただ、構造シラバスにより文法を体系的に学習していない学習者にとっては、中級レベル以上であっても、ある語が文中でどのような文法機能を担っているのかといった文法分析を行うのは容易ではない。つまり、文法機能に関する十分な知識と理解がなければ、「補語になれる」といった文法面での語彙情報を得たとしても、それを学習者自らが「用例」で確認することは困難であるという問題が指摘できる。「補語になれる」といった表現をより簡潔にして、「“得”の後で、ある動作に対して、その様態や評価を示す成分として用いる」といった

例に換えることにより、どのようなレベルの学習者にも対応可能な学習辞書の性格を強めることが可能となる。

刻苦 kèkǔ [形容词] 很能吃苦；肯下功夫。

(中略)

[作状、补] “刻苦”也常作状语、补语。如：

演员们在～地排演新戏 | 小运动员也练得很～ 《疑难：210》

上の例は“刻苦”に対する、ある辞書における記載である。「用例」の箇所には、文を提示するだけでなく、[作状、补]というように、どの文法機能で使用される例なのかという点を含めて説明がなされている<sup>(23)</sup>。当辞書は、主に語の文法機能を詳細に示すタイプの学習辞書であるが、このような体裁を採用することにより、比較的容易に語の文法機能を「用例」から理解できると言える。

## 六 日本人学習者に適した「日中同形近義語」に対する「用例」とは(「意義素」と「意味項目」の関係からの考察)

語の「意義素」と辞書における「意味項目」の関係性から、「語義記述」と「用例」について考える。ある語が辞書の「見出し語」となった場合、その語が持つ主要な「意義素」によって項目立てがなされ、「用例」は通常、その項目ごとに付される。学習辞書は一般辞書と比べて、「意味項目」の数は少なく設定される傾向にある。そうすると、語が有する「意義素」に対する集約の度合いが大きくなる。この集約の度合いが大きければ大きいほど、一つの箇所に提示される「用例」であっても、実際は様々な語義を示すものが混在することになる。このように、辞書の「意味項目」は総括的で、複数の「意義素」が一つの「意味項目」に集約される事例がよく見受けられる<sup>(24)</sup>。これは主に紙幅など、辞書の編纂上の理由により、適宜調整されることが多い。

ただ、「用例」提示の際は、一つの「意味項目」に集約された「意義素」に応じて、バランスよく行なわれなければ、学習者の語彙学習に不利をもたらす点も軽視できない。

このような「意義素」と「意味項目」の関係性は、日本人学習者にとって、特に「日中同形近義語」に対する処理において、不利をもたらす可能性に注視しなければならない。本節では以下、“集合”と“习惯”の例を挙げて、この点に関する事例と考え方を示す。

中国語の“集合”は日本語の「集合（する）」と異なり、「人」の他、「物」に対しても使用する。以下は学習辞書における“集合”の例である。

#### 集合 jíhé (動)

许多分散的人或物聚在一起；使聚集。(assemble) 常做谓语、定语。

[例句] 明天早上八点在校门口集合。| 得到通知后大家很快就集合起来了。| 情况紧急，马上集合队伍，15分钟后出发。| 请告诉我们集合时间和集合地点。| 对不起，我没听见集合铃响，来晚了。

《用例：508》

jíhé 集合 [動] 集合する. 集まる. 集める

(略) [在操场~] グランドに集合する / (略) [~队伍, 准备出发] 部隊を集め、出発の準備をする。 『学習：312』

「語義記述」には「分散していた人或いは物が集まる」との内容が見られるが、その下に示される「用例」は、すべて「人に関する動作」である<sup>(25)</sup>。「用例」は「見出し語」の典型例を付すという原則に応ずる必要がある。一方で、日本人学習者の「日中同形近義語」の語彙学習という点を考慮すれば、日本語の同形語にはない「物」に対する意義素を示す「用例」の提示が必須となる。このように日本語の同

形語にない方の意味を示す「用例」を多用し、さらに日本語と同じものは、その提示を減らすのが有効である。

### 习惯（名 / 动）

（名）长期形成的，不容易改变的行为、倾向或社会风尚。（habit； custom）常做主语、宾语、定语。

**例句**我每天早晨跑步，这个习惯是最近几年养成的。 | 少数民族的风俗习惯各不相同。 | 晚睡晚起不一定是好习惯。 | 应该养成良好的学习习惯。 | 向习惯势力挑战很不容易。

（动）常常接触某种情况而逐渐适应。（be used to; be accustomed to）常做谓语、状语。

**例句**我对北京的气候很不习惯。 | 留学生们已经习惯了这儿的生活动。 | 老年人一般都习惯于早起。 | 她习惯在夜深人静的时候写作。 | 每天下班，她都习惯地去商店逛逛。

《用例：1145》

次に“习惯”について、上に示すように多くの学習辞書では主に動詞と名詞という品詞により、二つの「意味項目」が立てられる。日本語の「習慣」は名詞なので、この点から見れば、動詞の用法が日本人学習者にとっては重要であり、その「用例」も充実させる必要がある。また、名詞の方の「語義記述」の中で示される“社会风尚”という「意義素」が日本人学習者には重要である。なぜなら、日本語の「習慣」は、主に日常的な意味や場面に応じたときに使用し、社会性を伴う意味合いの時は、あまり使用しないからである<sup>(26)</sup>。

上の辞書において示される「用例」は、「個人の習慣」についてのもので、“社会风尚”という意義素を示すものが混在している。日本人学習者にとって有用性が高い例を提示するという観点からすれば、“社会风尚”に関する例の数を増やすと同時に、日本語の「習慣」と

の相違が顕著な例を示すことが望ましい。

本節の内容を総括すると、日本人学習者にとって難解な「日中同形近義語」に対して、辞書の「用例」において、日本語の同形語にはない方の「意義素」を多用する。さらに日本語と中国語に共通する「意義素」を示すものはその使用を減らすという方策である。これは、学習辞書の「用例」が発する効力を応用して、日本人学習者の母語からの負の干渉を避けるという、語彙指導全般の課題を解決するという目的によるものである。学習者の語彙学習や習得において、「日中同形近義語」に対する認知面での記憶と定着の活性化をもたらすといった効果が見込める。

## 七 おわりに

以上、本稿では学習辞書の「用例」について、主に語の語彙的性質による観点からの考察を行なった。辞書の実用者である学習者に適した「用例」とは何かという課題を考えた場合、内容中心の趣向性を重視した文の採用や、一部の辞書で採用されている“完整句释义法”と称される「導入文」と「解説文」の二つの「用例」のみから語義を認識させる方法など<sup>(27)</sup>、さらに様々な角度からの分析と考察が不可欠である。また、辞書においては「見出し語」に学習上のレベル分けがなされることがあるが、複数の「用例」が付される場合、「用例」に対してもレベル分けを付すような体裁の辞書作成の可能性が指摘できるが、この点については稿を改めて論じたい。本稿では、紙幅の関係上、一部の辞書におけるわずかな事例を挙げることしかできなかったが、「日中同形近義語」など、日本人学習者にとって難解な語について、各辞書で提示される数多くの「用例」の比較対照をさらに進めたい。そして教育上、主に日本人学習者にとって有用性が高い「用例」を引き続き追求したい。

語に対する「用例」は辞書以外にも、授業で使用するテキストにお

いても見られる。テキストの各課における「学習ポイント」の箇所では辞書と同じような体裁で、学習対象となる語に対して、複数の「用例」を付すことがある。今後はテキストにおいて提示する「用例」についても考察の範囲を広げ、研究を進めたい。

## 注

- (1) 辞書の「マイクロ構造」については、下記の記載を参照した。  
 词典的微观结构是指宏观结构框架中各词条内部的信息组织结构，它按一定的格式提供词目词所蕴涵的全部或主要信息。在正常情况下，词条段落以词头开始，之后的信息都是对词头的诠释，一般包括拼写、注音、词条、词法、句法、标签、释文、注释、例证、派生词、同义词、反义词、成语、熟语、谚语、词源、插图、参见，以及用法说明和语义辨析等。章宜华・雍和明（2007：59）
- (2) 黄建华・陈楚祥（2003：60）には、下記の記載がある。  
 例证不仅补充说明词的意义，使其具体化，而且说明它的用法，包括它的语法特点、搭配范围、修辞色彩。总之，例证可以揭示词的实质，说明它的内涵与外延。
- (3) 荒川清秀（2009：19-34）には、日本人学習者が必要とする辞書の「用例」について、“参加”を例に挙げ、日中同形語にもコロケーションの相違があることが多く、注意が必要であるとの指摘が見られる。
- (4) 蔡永强（2016：81-83）では、ここで挙げた3冊の辞書のほかに、《现代汉语常用词用法词典（北京语言大学出版社）》、《汉语常用词用法词典（北京大学出版社）》、《汉语8000词词典（北京语言大学出版社）》、《当代汉语学习词典（北京语言大学出版社）》、《汉语5000词用法词典（华语教学出版社）》を含めた、計8冊の学習辞書に対して、詳細かつ体系的な調査がなされている。
- (5) これらの辞書はいずれも学習辞書としての体裁が極めて整然としていて、独自の形式や配列の方法が使用されている。全体的に、使用者である学習者に役立つ辞書の作成という編纂の方針が強く見受けられる点が、本稿の調査対象として選択した主たる理由である。
- (6) 刘川平（2006）では、「“解释性、功能性、适应性、现实性、交际性、浅易性、协调性、兼容性、多样性”」という九つの原則が示されている。

- (7) 刘若云等(2012:9)では、用例文に用いられる言語の簡易性について、以下のような記載があり、参照した。

外向型汉语学习词典用例的语言必须浅显,简单明了,易于理解,晦涩、含蓄、太过书面化的用例,都是不可取的。

また、本論文(11頁)では中国で使用されている5冊の学習辞書における用例文に使用される語のレベルについて、旧 HSK の《HSK 等级大纲》と対照した調査結果が示されている。

我们认为,为便于学习者理解和掌握,外向型汉语学习词典用例用词应尽量使用《HSK 等级大纲》中的甲乙级词,尽量少用丁级词、超纲词,用词数量以控制在5000词左右为宜。

- (8) 刘川平(2006:104)では、“協調性”という原則について、以下のように述べられている。

这是一般词典的共性要求,常指用例“应该与释义和义项协调吻合”。本文讨论的协调性内涵稍广,要求用例与词语在词义、功能、语体几个方面都要协调一致。

- (9) 姜自霞(2006:226)には、学習辞書3冊の用例の形式に対する調査が見られ、参照した。

- (10) 当辞書の序文に以下のような記載がある。

用例丰富实用。这是本词典的着力点和主要部分。

- (11) 张宏(2012)では、「用例」の機能について、「一般辞書」と「学習辞書」という観点から体系的な論考がなされている。

- (12) 中国語の辞書における「語義記述の方法」については、拙稿、浅野(2016)で論じた。

- (13) 于屏方・杜家利(2015:7)は、《现代汉语词典(商务印书馆)》におけるマイクロ構造としての“释义”と“配例”についての関係性を論じている。その中で歴代の辞書学における三つの観点として、“意义中心原则”、“用法中心论”、“意义—用法—体论”の三つが提示されている。

- (14) 朱丽云(2009:205)を参照した。

- (15) この点を考慮すれば、《重点:204》で提示される“外面建筑工地上 的声音干扰了我们上课。”のような例文が適している。

- (16) 「定義法」は「類+種差」の形式で記述するものが主流である。ただ、本稿で言う「定義を用いた法」は、おおよそ文の形で語の解説をする方法のことを指している。

- (17) また二つの形態素の意味から単語の語義を捉えるということを考え

ると、「動目型」、「修飾型」といった語の内部の「語構成」に対する知識を付すことも有用性が高い。

- (18) 于屏方・杜家利 (2015: 9) では、語義記述の方法で「括弧による方法」を用いた際の、「用例」提示の注意点として下記の記載が見られる。
- 現在、在各种语言的通用型语文词典编纂中，括注式释义都是主要的释义方法，使用这种方法，需要注意释义与配例之间可能会形成较高的冗余度。
- (19) 中国語学習辞書において提示される語彙情報については、杨金华 (2015) に詳しい。
- (20) 杨金华 (2015: 37) には以下のような記載が見られる。
- 据考察，有些外向型汉语学习词典也给出了核心信息以外的一些信息。(中略) 但仔细分析就会发现，词典提供这些信息不仅随意性大、差异大，而且不加区别，也不讲究呈现方式（大多为静态的、孤立的），甚至不考虑这些信息能否直接或从哪些方面能帮助学习者使用词语。如果只是把这些信息罗列出来而不做特意设计或安排，对学习者的实际使用是没有什么直接帮助和指导作用的。
- (21) 杨寄洲 (2004: 99) では次のような記述が見られる。
- 两个意义相近的及物动词，有的动词可以带具体名词作宾语，有的只能带抽象名词作宾语，有的既能带具体名词也能带抽象名词。
- (22) 辞書の見出し語の文法面における情報をどのように「用例」で具現化するのかという問題については、蔡永强 (2016: 138) を参照した。
- (23) 伊地智善継編 (2002) 『白水社中国語辞典』では、個々の用例文に文法機能が標記されていることはよく知られている。
- (24) 于屏方 (2016: 188) を参照した。
- (25) 筆者の観察によれば、他の学習辞書でも、「人に関する動作の用例」が圧倒的に多い。
- (26) 『日中同形語小辞典: 146』を参照した。
- (27) 徐玉敏主编 (2005)《当代汉语学习词典》北京语言大学出版社を参照。

## 参考文献

- 浅野雅樹「中国語教育における「語義記述の方法」に関する考察——「訳語」以外の方法の適用性を中心に」、『藝文研究』111号、2016年。
- 荒川清秀「中国語学習辞書の今後」、『中国21』(32)、2009年、19-34頁。
- 関西大学中国語教材研究会編『中日同形語小辞典』白帝社、2010年。
- 蔡永强《对外汉语学习词典学》学林出版社、2016年。
- 黄建华·陈楚祥《双语词典学导论(修订本)》商务印书馆·北京、2003年。
- 姜自霞 对外汉语学习词典配例分析及建议《对外汉语学习汉语词典学国际研讨会论文集(二)》中国社会科学出版社、郑定欧等主编、2006年。
- 解海江·郑晓云·章黎平《对外汉语辞书调查与研究》外语教学与研究出版社、2015年。
- 刘川平 对外汉语学习词典用例的一般原则《辞书研究》第4期、2006年。
- 刘若云·张念·陈粉玲 外向型汉语学习词典用例的语言与内容《语言教学与研究》第4期、2012年。
- 徐玉敏主编《当代汉语学习词典》北京语言大学出版社、2005年。
- 魏向清·耿云冬·卢国华《双语学习型词典设计特征研究》、外语教学与研究出版社、2014年。
- 杨寄洲 课堂教学中怎么进行近义词语用法对比《世界汉语教学》第3期、2004年。
- 杨金华 论外向型中高级汉语学习词典的词条信息《辞书研究》第1期2015年。
- 于屏方·杜家利《现代汉语词典》释义与配例的关联性与认知效果分析《辞书研究》第3期、2015年。
- 于屏方《外向型学习词典研究》商务印书馆、2016年。
- 张宏 词典例证功能分类再探——以普通语文词典和学习词典为例《外语研究》第4期、2012年。
- 章宜华·雍和明《当代词典学》商务印书馆、2007年。
- 郑定欧·李禄兴·蔡永强主编《对外汉语学习汉语词典学国际研讨会论文集(二)》中国社会科学出版社、2006年。

## 用例出典

- 《用例》：刘川平主编《学汉语用例词典》北京语言大学出版社、2005年。
- 《活用》：梅家驹主编《学生汉语活用词典》汉语大词典出版社、2006年。

《重点》：朱丽云主编《实用对外汉语重点难点词语教学词典》北京大学出版社、2009年。

《疑难》：李临定编著《现代汉语疑难词词典》商务印书馆、1999年。

『学習』：相原茂編著『はじめての中国語学習辞典』朝日出版社、2002年。

\*本文中の上記辞書名の略称の右側に示した数字は、辞書におけるページ数を示す。